

鉾立小学校 児童の安全確保に係る対応方針地域説明会（保護者）
議事録

日 時：令和5年9月25日（月）19：00～19：45
場 所：鉾立小学校特別教室棟多目的ホール
出席者：教育長、教育次長、教育総務課長、学校教育課長
（教育総務課職員、鉾立小学校職員）
参加者：保護者24名（内、就学前保護者4名）、市議会議員7名
報道機関1名

1. 開会（挨拶）

教育長

平成27年の耐震診断以降、二転三転し、地域保護者の皆様には多大なご迷惑をお掛けしている。

昨年度の木造校舎の耐震化、今年度のプレハブ設置の案が否決され、今後の児童の安全確保ということで今日の説明に至る。

教育委員会としては、児童の教育論を第一に、安全安心を考えた上で、今日の対応方針の説明となる。

この後、教育総務課長から詳細説明をするが、その上でご意見賜りたい。

2. 説明

資料に沿って説明（教育総務課長）

- ・ 前回説明会（R5.2.22）以降の動き
- ・ スクールバスで胸上小学校へ通学する
- ・ 鉾立小、鉾立小＋胸上小の学年別想定児童数
- ・ 今後の流れ（想定）

3. 意見交換（一部文脈修正）

参加者 1

12月補正とあるが、胸上小との合併はもう決定か。

教育総務課長

12月補正予算が可決されれば、事業化決定となるため、それをもって固まるということになる。

参加者 1

胸上小と一緒にになったとき、制服等はそのまま使えるか。

教育総務課長

今まで使用しているものは、そのまま使用していただいて構わない。新たに買っていただくことは考えていない。

参加者 2

来年の1年間はそのままの校舎で授業等行うのか。

教育総務課長

ご迷惑をおかけするが、来年は今ある木造校舎で過ごしていただきたい。

学校側では地震等を想定した避難訓練を行ってもらっている。徹底してやってもらい来年1年間は申し訳ないが木造校舎で過ごしていただきたい。

参観日で見られたと思うが、ヘルメットを2学期から用意した。地震を想定した訓練においてもヘルメットを使用している。

参加者 3

学童を利用している子は、胸上小の学童に通うことになるのか。

教育総務課長

胸上小にも学童がある。学校側と調整中。胸上小の部屋を改修等して、基本的には胸上小の学童保育を利用するよう考えている。

参加者 3

その場合、完全お迎えになるのか。

教育総務課長

実際、集団下校ができるタイミングなら、スクールバスを使えるが、それ以降はお迎え。社会福祉協議会及び担当課と胸上小の現場を見ながら話をしたばかり。具体的な対応については、関係課からお知らせする。

参加者 4

学童の迎えについて、今は鉾立小だから延長にせずにできているが、延長になってしまう。下の子が1年生のため先が長い、延長になると延長料金が発生する。そちら側の問題なのに、こちらが負担しなければならないのか。何か案はあるか。

教育総務課長

関係課の資料では、鉾立小の放課後児童クラブに17人が通っている。

徒歩帰りの17時退出が9名、17時に保護者迎えが2人、18時まで延長が6名。今と状況が変わるということもあり、社会福祉協議会もこういった対応ができるか考えているところであるが、ご意見については持ち帰りたい。

参加者5

議会の可決を経てからと言われているが可決されないことは起こり得るか？

教育総務課長

これまで2回可決できなかった。今回、スクールバスで行くという話でやっていくので、教育委員会としてはこれしかないと思っているので、全力で頑張っていきたい。絶対とは言えないが、子どもの安全安心を確保したいと思っているので一生懸命取り組んでいきたい。

参加者5

私たち、長くこの話をしているが、ようやくスクールバスまで話が出ているのは感じている。しっかり話を伝えて欲しい。よろしくお願いします。

参加者6

議会の可決を経てということで、否決になることもあるかと思うが、耐震案30年で年600万（償却）、一方スクールバスは年2千万。予算的には増えるが、スクールバスの補正予算案が否決されたとき、R7年度から胸上小に通う案もなくなるのか？それともそれは決定で代替の登下校案がでるのか？

教育総務課長

議会との調整がある。予算が通らないと、事業化はできない。スクールバスの補正予算が決まったら進められる。このためこれが決まらなると次の案を示すこともできない。

スクールバスは2台で年間2500万円かかる試算。バス運行による国の支援や、鉾立小の維持管理費1千万程度かかっているため、経費的にはほぼ変わらない。まずは、12月のスクールバスの運行委託事業を議会に上程する予定なので、実施できるようしっかりと対応していきたい。

参加者6

否決はないという認識でよいか？

教育総務課長

絶対というのはいえない。否決されないように、丁寧に、3度目はないというつもりでやっていきたい。ただ「絶対」はない。

参加者 6

令和7年度から胸上小は決定か？

教育総務課長

予算が通って、スクールバスの運行できるようになって始めて7年4月から胸上小学校に行けるようになるため、予算が通らないと、教育委員会が示している案も考え直す必要がある。令和7年4月の胸小は議会を通るのが前提となる。

参加者 6

玉野市の教育は予算ありきで動くということか。

教育総務課長

議会の承認を得た上で、市の教育行政は動いている。教育委員会の動きと、議会との両輪で教育行政をやっているのだから、議会へ予算案を出して、進めていくという流れ。

参加者 7

来年度、子どもが鉾立小に入学する。耐震化にかかる説明会に数年前から参加していて、まさか自分の子が耐震化されていない学校に通うとは思っていなかった。在籍児童や保護者・先生方のことを考えると、どうにかならないのかなと感じている。予算がないからできないということも仕方ないが、来年度もこの校舎のままなんて、できるだけ耐震化された特別教室棟を使うようにするか、お金をかけずに何かできたりはしないのか。

教育総務課長

ここまでするのに8年かかり、色々な案が出て、特別教室棟の改修をする中で、少しでも子どもの安全安心を早く実現できるように検討してきた。特別教室棟の中に、理科室、図工室等があるが、このまま使えないので、改修が必要となる。費用もかかる。これまでもプレハブの件でもそうだが、新しいものができるまでは木造校舎ということにしていたので、申し訳ないが、令和6年度については今の状況となる。避難訓練等の対応でやっていきたいと考えている。

参加者 7

特別教室でも、児童の安全が一番なら、保護者も机を動かす等引っ越しの手伝いはできる。何かあったらどうしようもない。今年度 2 学期から、ヘルメットを配付されたとのことだが、机の横にかけてあるのか？

教育総務課長

6 月議会で否決され、今の状況を少しでも改善したいということで、全児童にヘルメットを配付した。学校にもお願いしてすぐ使えるよう机の横に置いている。参観日で避難訓練したと思うが、毎月やっていく。特別教室棟を全児童が入れるようにすれば良いが、教育委員会でも考えてみたが、今の図工や音楽等の授業をやりながら、さらに区分けというのは難しいところもあり、できないため、スクールバスとした。

教育次長

特別教室棟だが、学年別に分ける必要があるため予算が必要。予算がないとできない。特別教室棟を長く使うなど、校長とも話しながら、工夫して対応する等考えている。

参加者 7

ヘルメットで守れるのか。データはあるのか。気持ちだけでも思える。

教育総務課長

他の学校も耐震改修はしているが、地震の規模にもよるが絶対大丈夫というのは難しいと思う。言えることは他の学校よりも避難訓練の回数も多く、しっかり意識付けをさせてもらっているが、阪神淡路等の大きな地震が起きたとき、実際すぐに動けるかというところが多分動けない。そういった時に、机の下に隠れるといったところで身を守る。ヘルメットがあれば、より命を守る行動が取れる。絶対大丈夫ということではないが、意識付け、訓練を通して、自分の身は自分で守る行動がとれるような対応ができればと考えている。

参加者 7

大きい揺れがあると思うが、まずヘルメットか机の下か等、指導していると思うが、よろしく願います。

参加者 8

予算のことについて、3 月末に休校となっているが、鉾立小を維持するにもお金がかかっていると言われた。想定どおり進んだとして、休校になった後の

鉾立小はどうなるのか。鉾立小の維持費をスクールバス等の事業に予算を回して、事業を進めることにお金を使ってもらいたいと保護者としては思っている。休校となった後、小学校を維持しないという考えなのか。もしくは前々から地域の方から話があったと思うが、鉾立小をどうにかして維持していく方向で、ただお金がかかる話のため、それは全く別のこととして話をされているのか。

教育総務課長

スクールバスは、8月から議会に提示し今日の説明会に至っている。鉾立小の運営経費としては1千万ちょっとかかっている。この中には用務員や図書司書の人件費、光熱水費等。先生は県から来ているから別。維持するための修繕費等で1千万程度、これは基本的にスクールバスに充てたい。用務員、図書司書は必要なくなってくるため、その人件費をスクールバスに充てられる。休校扱いなので、その間は市が学校として管理する。最低限の管理はさせてもらう。その先は現時点ではどういった活用ができるかは、お答えすることはできない。

参加者 8

因みに、管理はしていこうということだが、思うに、生活しなくなった家が古くなるのと同じで、小学生がいなくなるとすぐにボロボロになってしまうと思う。今までと同様に、地域から「ボロボロになるのではないか」、と言われる想定はしているか。

教育総務課長

休校になったときの取扱いは、体育館はバレー等盛んにされていると聞いている。そういったところは、地域の方々の運動する場所ということで、休校中であっても使えるように工夫をしたい。運動場ではグラウンドゴルフをしていると聞いているので、利用してもらうことが大事と考えている。地域の方に活用してもらいたい。体育館は避難場所としての役割があるのでしっかり維持していきたい。何も使わなくなるとボロボロになるので、管理をしながら空気の入れ換え等、どういったやり方ができるか、カギの管理人さんとかいると思うので、工夫しながらやっていきたいと思っている。

参加者 8

木造校舎についてふれられなかったが、地域の方は木造校舎が景観を保って欲しい等の気持ちが非常にあると思う。確かに体育館は利用価値あるし、特別教室棟も避難場所としては今後も使ってもらえると思うが、旧校舎は耐震化もされていないし、閉館のためにお金を使うのか、そのままにしておくのか。スクールバスのお金もそうだが、予算が立たないとできないと思う。そのときに、

旧校舎の話とスクールバスとは別と考えているが、今までの流れとして、それを一緒にしてしまうとまた話がとん挫してしまうのでは。できれば別々に考えて、早めにスクールバスを進めてもらいたいと思っている。

教育総務課長

スクールバスと木造校舎の今後の利活用は別で考えて行く予定である。

参加者 6

鉾立小の先生はどう感じているのか聞きたい。

鉾立小学校長

学校としては、赴任して4年目になるが、説明会に出させてもらって、耐震化ダメ、プレハブダメというところで、学校としてできることということで、避難訓練等、子どもの安全で何ができるか工夫しながらやってきた。現時点で決定ではないが胸上小に行くことになるかもしれないので、それに向けて学校としてできることをやっていく。

来年1年間は木造校舎で過ごさないと行けないということで、子どもたちの安全安心を守るということで、避難訓練や特別教室棟をできるだけ使う等、時間割を工夫してやりたい。教職員も案を出し、子どもの安心安全を第一に考えている。

予算に関しては、教育委員会と議会のことなので、どうしようもないところだから、学校でできることをやっていきたい。

令和7年度からを目標にとのことですが、今年から、校外学習、修学旅行、海事研修等、胸上小の子どもたちと一緒に行くようにしている。来年も校外学習だけでなく、どちらにしても中学校では一緒になるので、できるだけ学習面での交流もしていく。遠隔で一緒に授業できる場面もあるので、胸小の子たちと交流していこうと考えている。

4. 閉会